

2023年度 新入生の状況に関する調査 結果まとめ

対象者数： 1,321名
回答数（率）： 611名（回答率46.3%）

- I. 緒言
- II. 本年度入学の状況
 - 1. 入学の目的
 - 2. 志望順位
- III. 入学者獲得に向けた取り組みの状況
 - 1. 入学に至るまでの本学の取り組み（全体）
 - 2. 入学に至るまでの受験生の取り組み（全体）
 - 3. 高大連携事業
 - 4. 本学ホームページにおけるオープンキャンパス動画の公開
 - 5. オープンキャンパスへの要望
- IV. 入学前に思い描いていた大学生活とのギャップ

I. 緒言

本調査は、新入生を対象に、本学（学部・学科）志望の動機・目的や、本学で実施されている各種取組の進路決定への寄与、および入学に至るプロセスへの要望などをアンケート形式（「入学時アンケート」）で収集・分析し、新入生の各種傾向を把握するとともに今後の入学者獲得戦略に資することを目的として実施するものである。本年度は、新入生（1,321名）を対象に、5月23日（水）～6月23日（金）の期間で実施した。

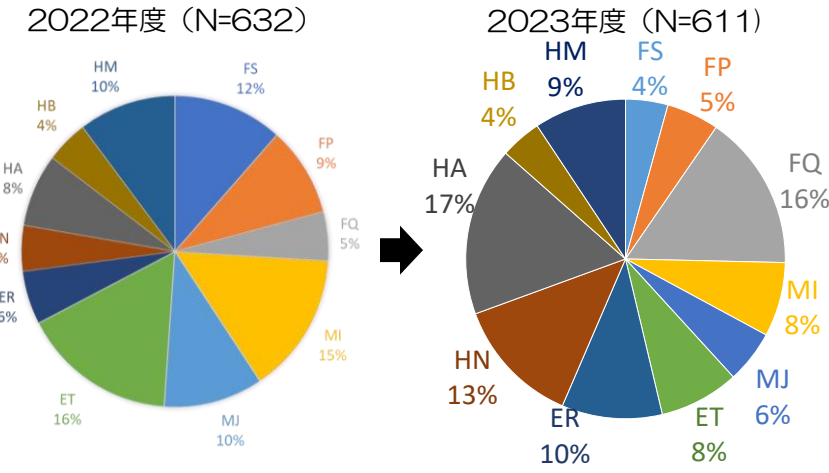
回収率の向上を図るため、アンケートは本学のポータルサイト（Universal Passport）上で設問に答える様式とし、かつ可能な限り初年次の必修科目である「リエゾンゼミⅠ」の時間内に実施してもらえよう、当該科目の担任教員に依頼した。残念ながら、有効回答数は611名であり、全学としての回答率は46.3%であった。同数値は、2021年度が54.4%、2022年度が47.2%であり、低下し続けている。

学科別の回答者数（率）と回答者所属学科の割合を以下に示した。回答率には学科による大きな開きがあり、この傾向は、昨年度、一昨年度も同様であった。一方、回答者の所属割合に大きな偏りはなく、ランダムサンプリングの結果とみることが可能である。従って、本報告書に示す数値は、学科ごとに信頼性が大きく異なる反面、入試種別ごとに示した数値に一定の傾向がみられる場合には、それが学科の特性に依存するものではないと解釈できる。

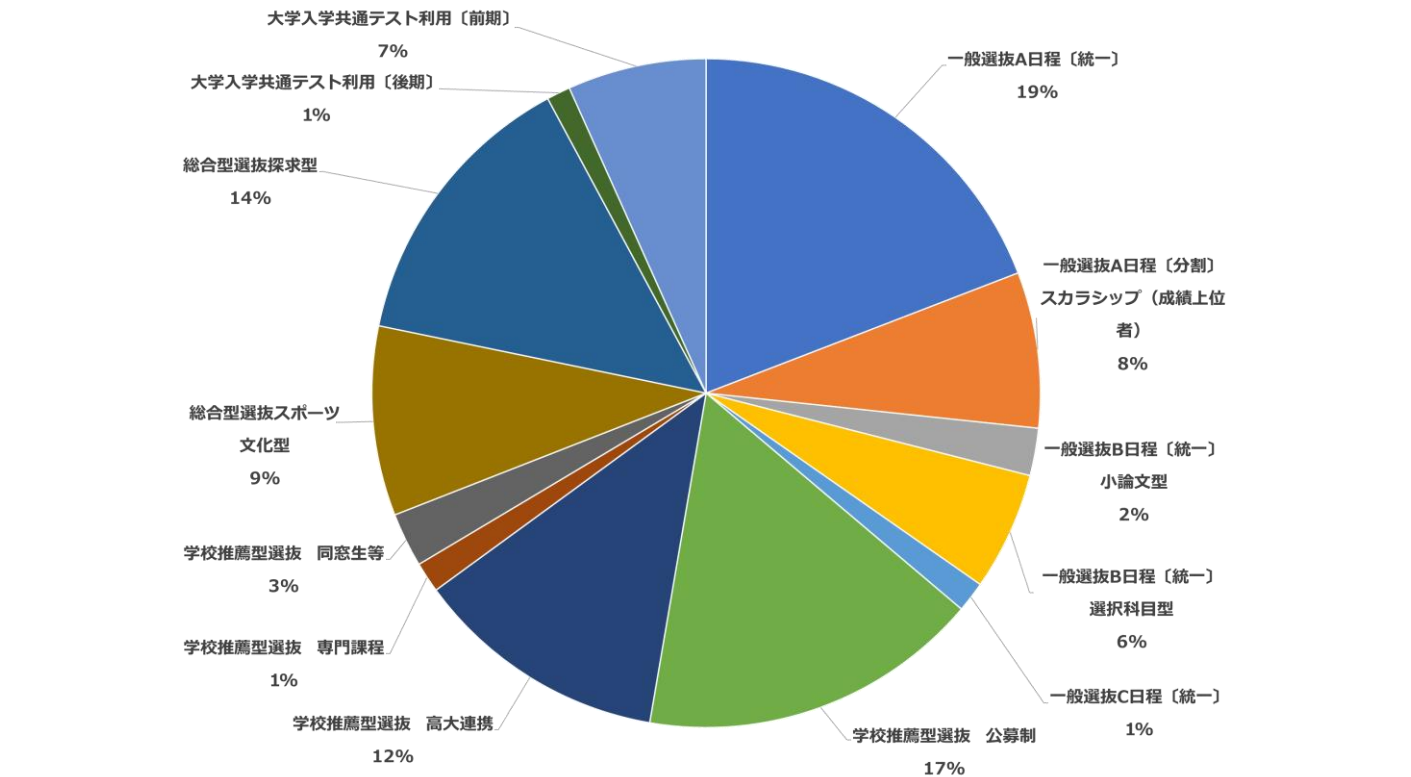
学科別回答者数と回答率

学科	対象者数 (人)	回答者数 (人)	回答率 (%)
FS	335	84	25.1%
FP	135	42	31.1%
FQ	116	107	92.2%
MI	109	48	44.0%
MJ	109	34	31.2%
ET	220	104	47.3%
ER	42	25	59.5%
HN	91	69	75.8%
HA	46	46	100.0%
HB	41	10	24.4%
HM	77	42	54.5%
総計	1321	611	46.3%

回答者所属学科の割合



入学した入試形式



<2023年度設問の概要>

設問1. 本学への入学を決めた入試形式

設問2. 入学の目的（1択）

設問3. 志望順位について

①私立大学のなかでの本学の志望順位

②入学した学科の志望順位

※本学以外に受験した私立大学名

設問4. 入学に至るまでの本学の取り組み（大学案内・入試ガイド・オープンキャンパス・各種相談会・入試制度・入学前教育など）についてよかったこと、改善してほしいことや要望（自由記載）

①よかったこと

②改善してほしいことや要望

設問5. 志望学科のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）の内容は十分に理解でき、進路選択の参考になったか

設問6. アドミッション・ポリシーや入試情報を知るために活用した情報ツール（1つ以上。複数回答可）

設問7. 活用した情報ツールの中で、進路選択に一番参考となったもの（1択）

設問8. 本学ホームページ「入試情報」の内容で、参考になった内容（1つ以上。複数回答可）

設問9. 本学ホームページ「入試情報」の内容で、改善してほしいことや要望（自由記載）

設問10. 高大連携について

①大学と高校の取り組み（高大連携事業）を知っていたか（1択）

②大学と高等学校の取り組み（高大連携事業）は、志望や進路決定の参考になったか（1択）

③大学と高等学校の指導の下で実施している入学前教育の成果（1択）

（その他等を選んだ場合の自由記載）

④入学前教育レポート（3月分）【学修計画書】について

※作成にあたり、特に参考になったもの

設問11. 本学ホームページにおけるオープンキャンパス動画の公開について

①オープンキャンパス動画を見た方 - 見た場所についてあてはまるもの（複数回答可）

②オープンキャンパス動画の内容で良かったもの（複数回答可）

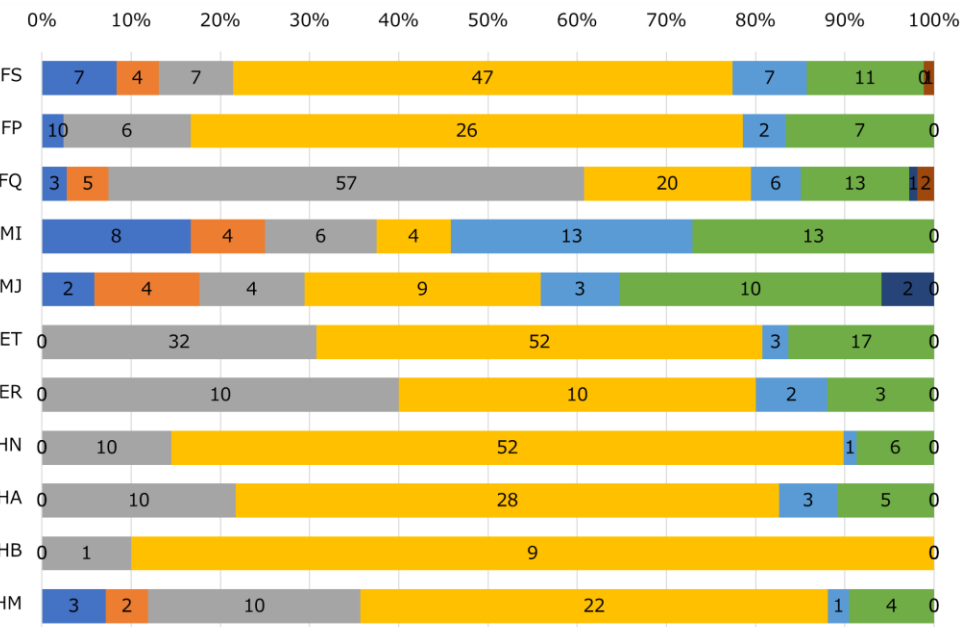
③オープンキャンパスでは是非やってほしいこと（自由記載）

設問12. 入学前に思い描いていた大学生活と現在の大学生活とのギャップ（自由記載）

Ⅱ．本年度入学の状況

1．入学の目的（1択）

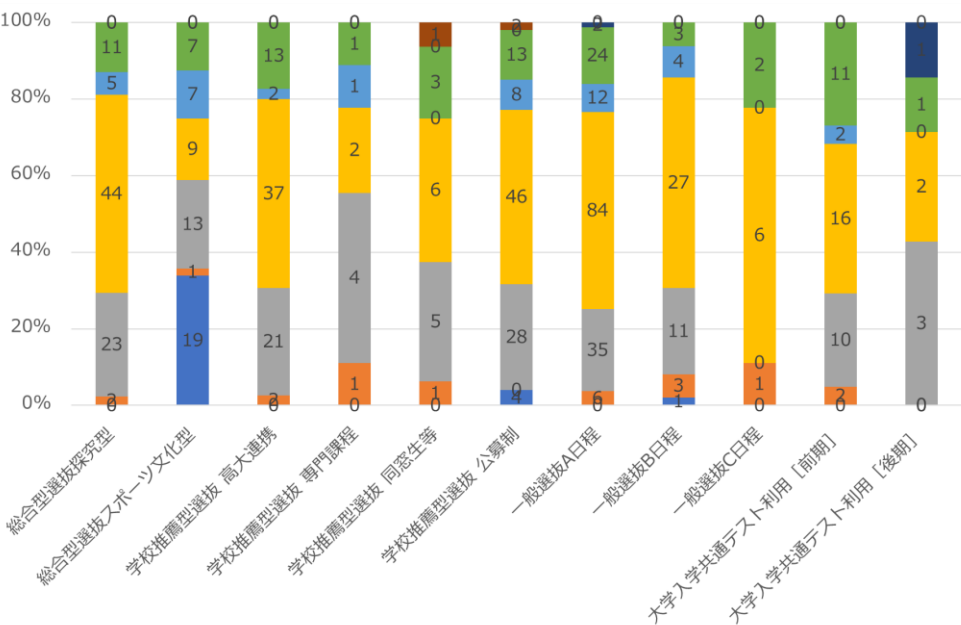
< 学科別 >



- 文化やスポーツ、ボランティア活動に打ち込むこと
- 大学卒業というステータスを得ること
- 将来やりたい仕事やなりたい職業に就くこと
- 資格の取得をめざすこと
- 在学中の経験を通じて自分を成長させること
- 興味・関心のあることを学ぶこと
- よくわからない、なんとなく
- その他

資格の取得
キャリアパスの一貫
すべりどめ

< 入試形態別 >



- その他
- よくわからない、なんとなく
- 興味・関心のあることを学ぶこと
- 在学中の経験を通じて自分を成長させること
- 資格の取得をめざすこと
- 将来やりたい仕事やなりたい職業に就くこと
- 大学卒業というステータスを得ること
- 文化やスポーツ、ボランティア活動に打ち込むこと

2021～2023年度全学での傾向比較



入学の目的は、学科による養成する人材像の違いを反映していると考えられる。

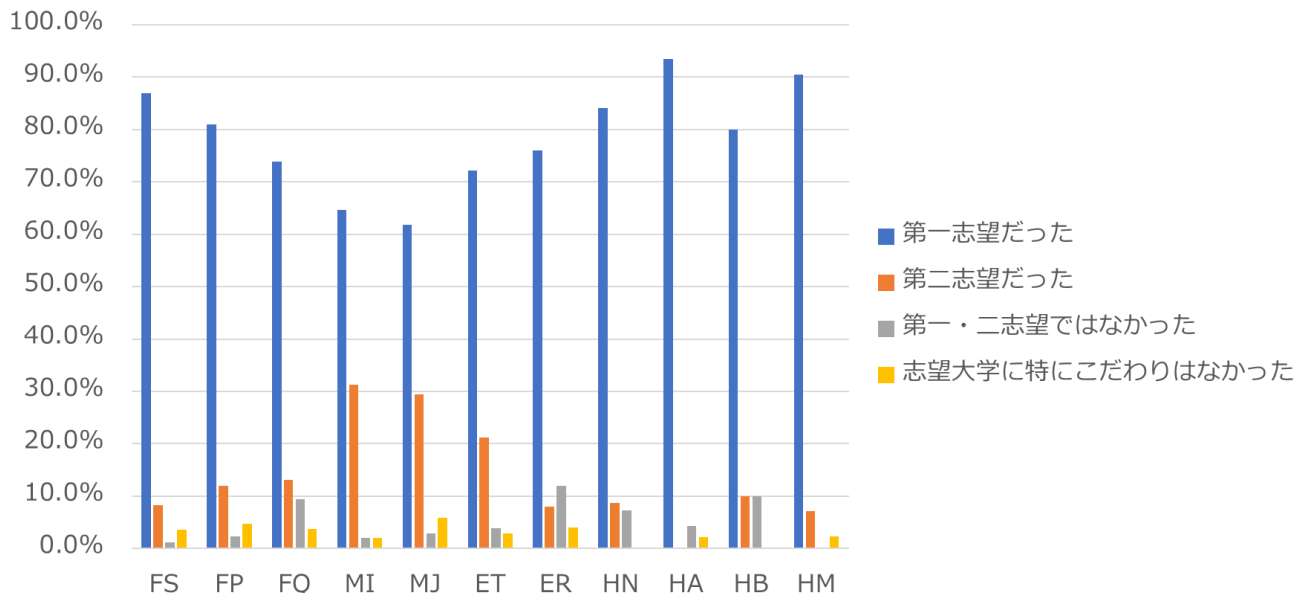
本学の特徴として、各種国家資格の取得を目指す学生が多いが、それを入学の目的とする学生が増加している。

反対に、「興味・関心のあることを学ぶため」と回答した学生は年々減少している。

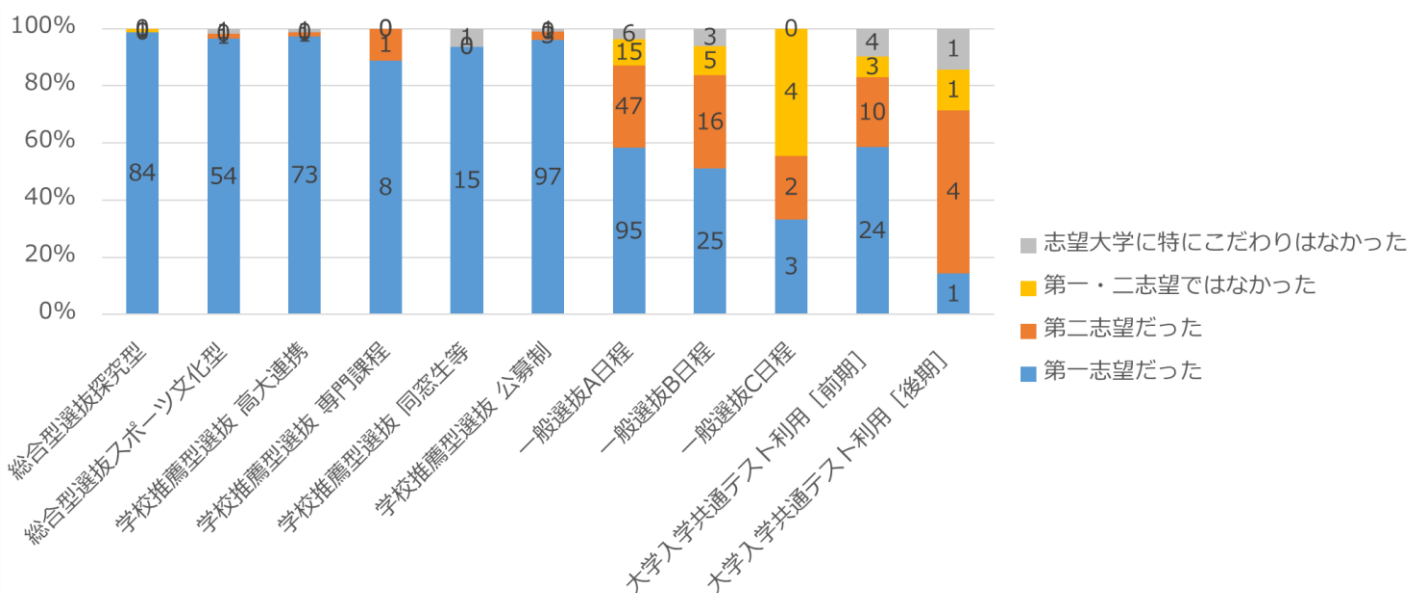
2. 志望順位

(1) 私立大学の中での本学の志望順位

< 学科別 >

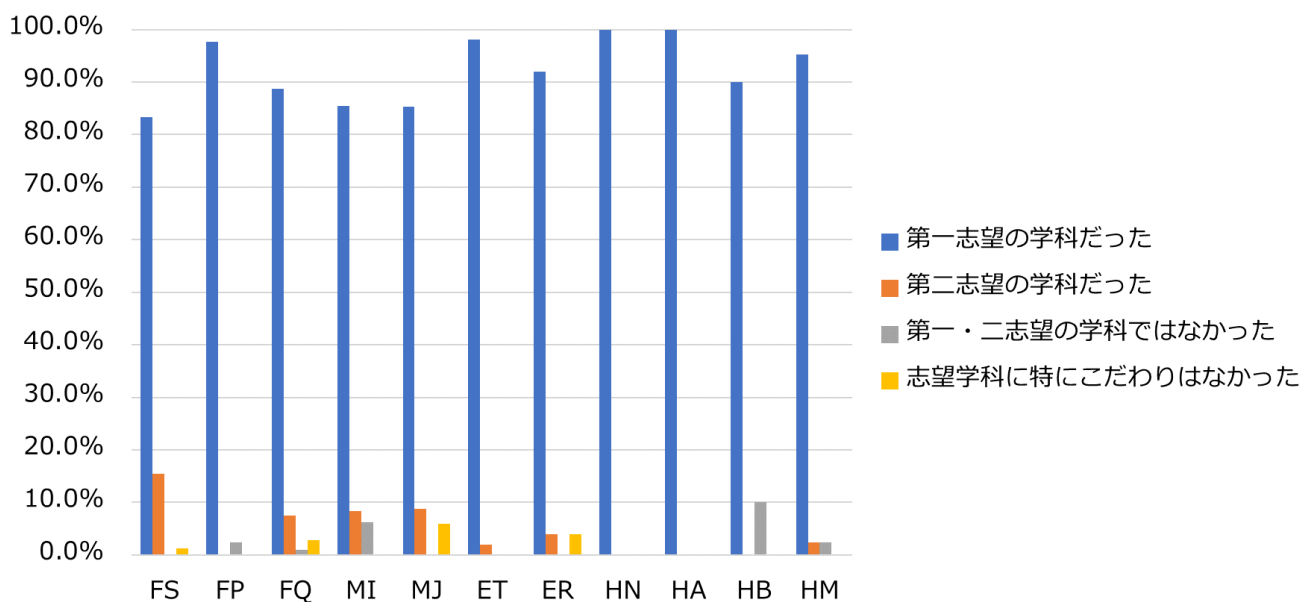


< 入試形態別 >

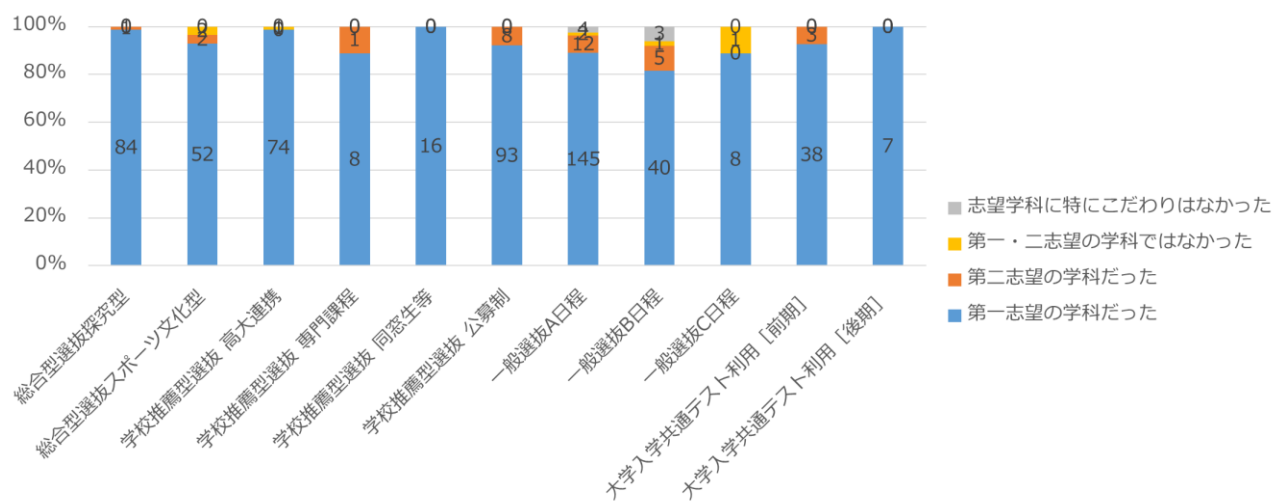


(2) 入学した学科の志望順位

< 学科別 >



< 入試形態別 >



大学・学科ともに、志望順位の高い学生の入学が年々増えている。これは、総合型あるいは学校推薦型選抜で入学する学生の割合が増えていることに依る可能性が高い。一般選抜に関しては、A日程、共通テスト前期においても第1志望であった割合は60%を下回っている。

下欄は、併願校に関する回答を基に入学者層の推定を行ったものである。偏差値については、ベネッセの資料 (<https://manabi.benesse.ne.jp/daigaku/hensachi/>) を参考とした。本学より偏差値が上位の大学を受験した学生は、おそらく第1志望が不合格となった結果と推定される。一方、それ以外の大学を受験した学生は、実質的には本学を第1志望としていたと考えられる。

上述の偏差値に関する資料によれば、国・公立大学の文系においては、2023年度で推定合格ラインの偏差値が49とされている。入学者確保に向けた取り組みとして、今後は下欄に斜線で示したあたりの層で、これまで本学が不合格としていた受験生を獲得する工夫が必要かもしれない。

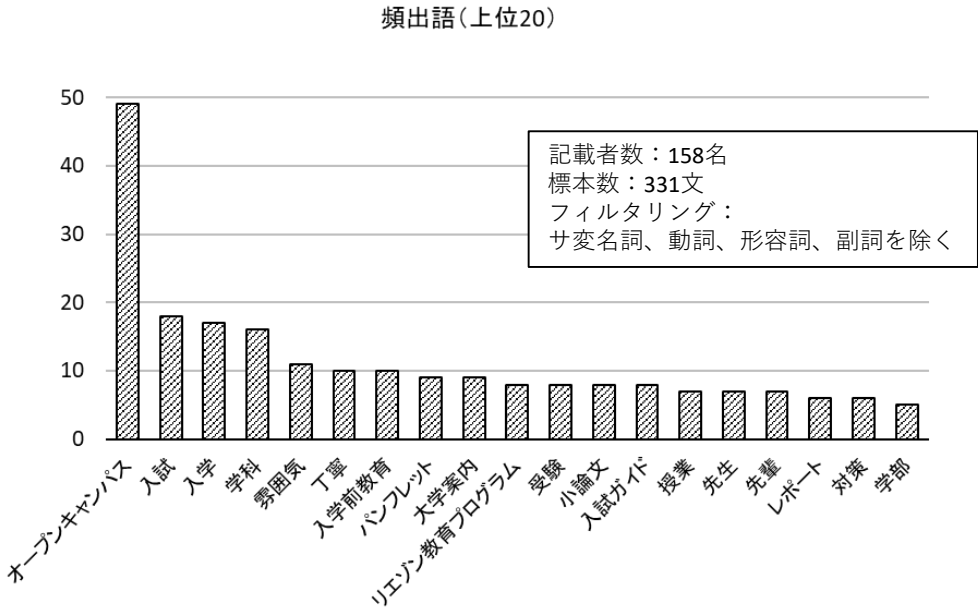
本学以外に受験した私立大学の名称・偏差値（2023年度）

名称	2023年度偏差値			
法政大学	64~70	不合格 (推定)	本学は、第2志望、 第3志望等であった ことが予想される層	国・公立文系 合格可能ライン
順天堂大学	56~65			
専修大学	55~62			
国際医療福祉大学	45~61			
神奈川大学	53~59			
福岡大学	50~59			
新潟青陵大学	52~58			
東北学院大学	47~56			
東北福祉大学	47~55	← 入学	本学が第1志望で あったと予想される 層	
帝京大学	47~54	合格 (推定)		
北星学園大学	49~53			
北海学園大学	52			
淑徳大学	45~51			
帝京平成大学	50			
白鷗大学	47~50			
宮城学院女子大学	46~49			
東北工業大学	45~49		?	
日本赤十字秋田看護大学	48			
金沢星稜大学	46~48			
尚絅学院大学	45~46			
東北文化学園大学	43~46			
仙台大学	45			
東北文教大学	45			
ノースアジア大学	45			
盛岡大学	44~45			
青森大学	44~45			
石巻専修大学	43~45			
札幌国際大学	42			

Ⅲ. 入学者獲得に向けた取り組みの状況

1. 入学に至るまでの本学の取り組み（全体）

（1）よかったこと



上図は、「よかったこと」として自由記載された文章から頻出語を抽出し、上位20までの頻度分布を示したものである。「オープンキャンパス」という語句を用いた記述が最も多く、他の語句が上位に抽出された文章の内容も、オープンキャンパス参加時の体験・経験に基づくものが多いという結果であった。今回、「よかった」と感じるきっかけとなった主要な要素は、以下のようにまとめられる。

①回数が多く定期的開催されたこと

- 【記載例】
- ・自分の目で雰囲気を確かめることができ、大学選びにとっても参考になった
 - ・様々な入試の疑問点を解消することができた

②ツアー形式で実施されたこと

- 【記載例】
- ・ツアーを体験して東北福祉大の雰囲気を感じ、入学を決めるきっかけとなりました
 - ・ツアー形式で行われていたので、不安を感じることなく楽しむことができた

③対面での丁寧な説明がなされたこと

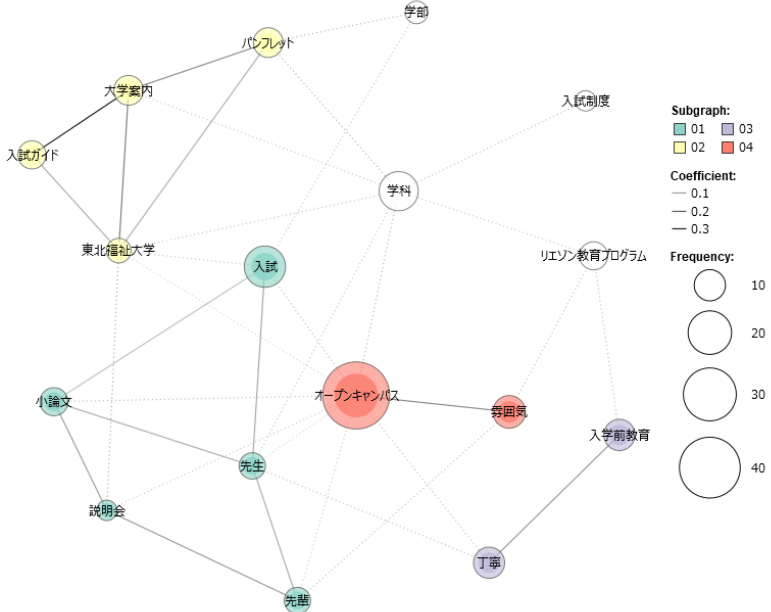
- 【記載例】
- ・唯一無二の大学で教職員が全力でサポートする体制ができている、卒業したあとの進路も具体的に聞いてすごくわかりやすかった
 - ・個別面談の際、入試のアドバイスから授業や時間割など入学後のことまで教えていただき、とても参考になりました

④対応に好感がもてたこと

- 【記載例】
- ・OCCの皆さんがとても親切で、案内が分かりやすく、大学の生徒の雰囲気が伝わり良かった
 - ・学生や警備スタッフに好感を持つことができ、気軽に声をかけることができた
 - ・雰囲気がよく、進路決定の一つの要因となった

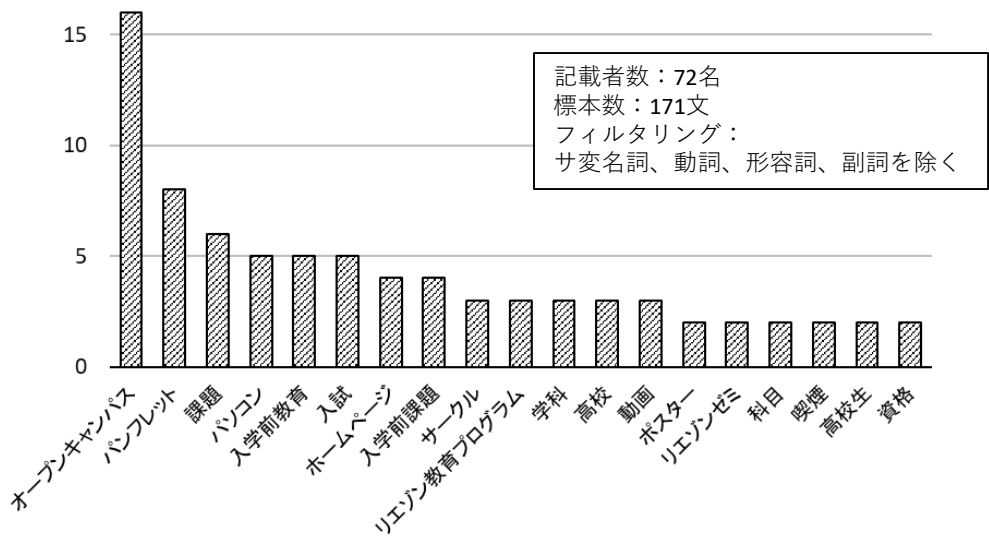
右図は、同一の標本を用いて、各抽出語間の共起性を調べたネットワークグラフである。このグラフからも「オープンキャンパス」の記述頻度が高いこと、この語句が大学の雰囲気を述べた部分との関連性が深いことがわかる。

その他の抽出語は、「大学案内や入試ガイドなどの資料」、「小論文などの入試対策」「入学前教育」、「学部・学科等の情報」、「入試制度」について記載された文に頻出していることがわかる。いずれも、取組の内容自体というよりは、「（説明の）丁寧さ」、「わかりやすさ」、「具体性」といったコミュニケーションの円滑さに好感を持たれていることが示唆された。



(2) 改善してほしいことや要望

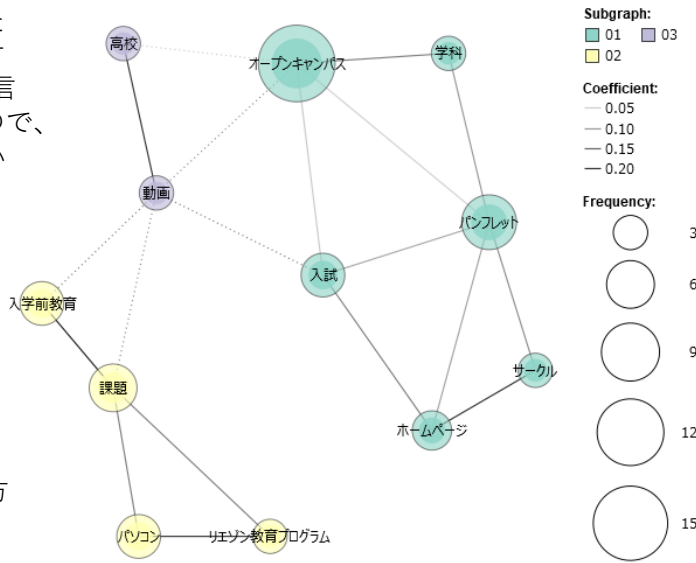
頻出語(上位20)



前出の図と同様に出現頻度分布を上位20まで示したものである。コメント記載者数は72名であり、「よかったこと」の記述者の半数以下であるが、こちらもオープンキャンパスに直接関係する記述が最も多かった。「改善してほしい」と感じるきっかけとなった主要要素は、以下のようにまとめられる。

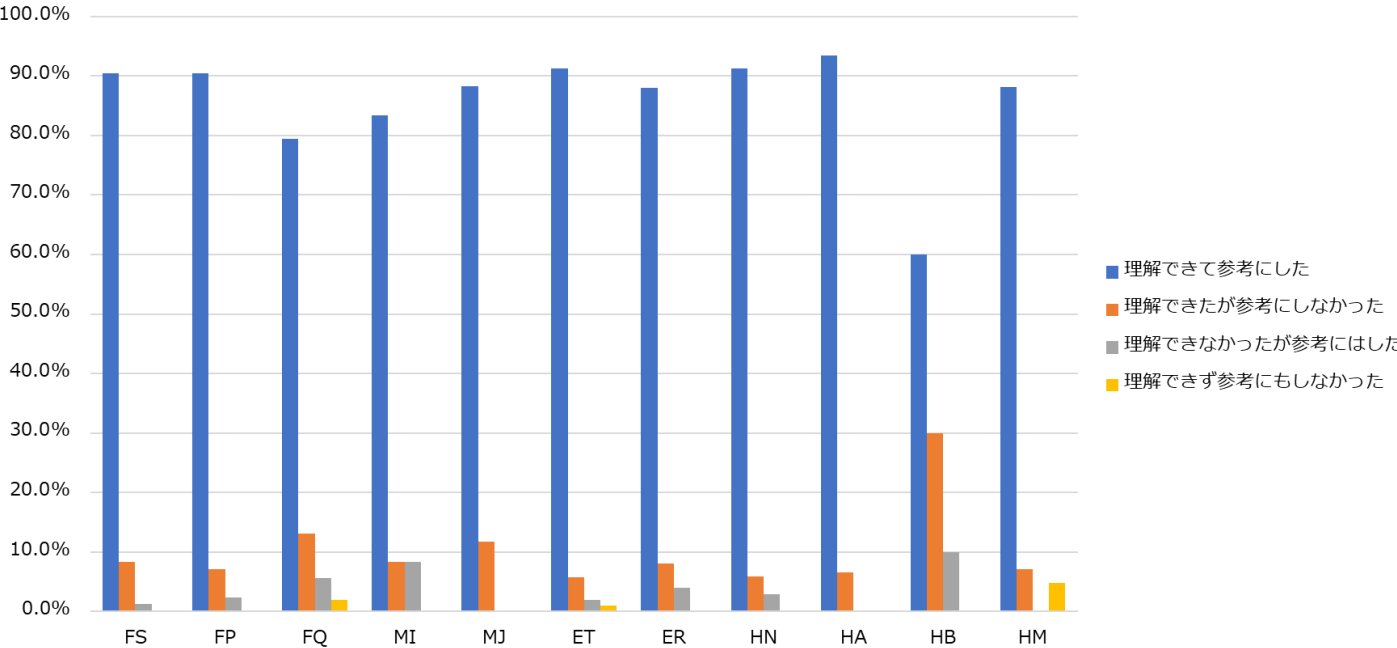
- ①開催を知らない高校生や、参加できない高校生への配慮
【記載例】
 - ・施設紹介動画を作成したり、近隣の高校に手紙やポスター等を作成し配布したらいい
 - ・オンラインでのオープンキャンパスをコロナが終わってもして欲しい
- ②本学および学内施設等へのアクセスの改善
【記載例】
 - ・自分が行きたい場所が探しにくかったのではっきり見れるようにしてくれると助かる
 - ・仙台駅から大学までのバスや電車で何に乗れば良いのかわからなかった
- ③ツアー実施に関する要望
【記載例】
 - ・施設見学の回数が少なく、時間的に学科紹介を聞くことができなかった
 - ・説明をしてくれたスタッフの方の声が小さくて聞こえなかった
- ④大学紹介の内容に関する要望
【記載例】
 - ・大学全体について、例えばほかの大学とは違うところや強みについてもっと知りたかった
 - ・資格と学科の概要だけでなく、具体的にどんな授業があるかや、学生の取り組んでいることなどを教えてほしいかった
 - ・学科説明では、パンフレットに書かれていることだけでなく、現地へ足を運んだからこそ知れるような、より詳しい情報が欲しかった
 - ・模擬授業をしてほしい
 - ・生徒さんと話す場を増やすなど、学校の雰囲気を感じることができる機会をふやす
 - ・学食の体験ができれば良い
- ⑤入試対策に関する要望
【記載例】
 - ・過去問は、答えも提示してほしい
 - ・相談窓口がすぐ埋まってしまっていたので、もう少し相談窓口の人員を増やす等の対策をとってほしい(私は体調に自信がなかったり、体力がなかったりするので、その機会に相談できていればとても安心したと思います)

右図は、同一の標本を用いて、各抽出語間の共起性を調べたものである。「オープンキャンパス」の記述頻度は前項と同様に高いが、出現の文脈は異なっており、参加できない高校生への配慮や、広報媒体のみでは得られない情報への期待がわかる。その他のカテゴリーとしては、「入学前教育」や「リエゾン教育プログラム」における「課題」のあり方に要望があることが示唆された。

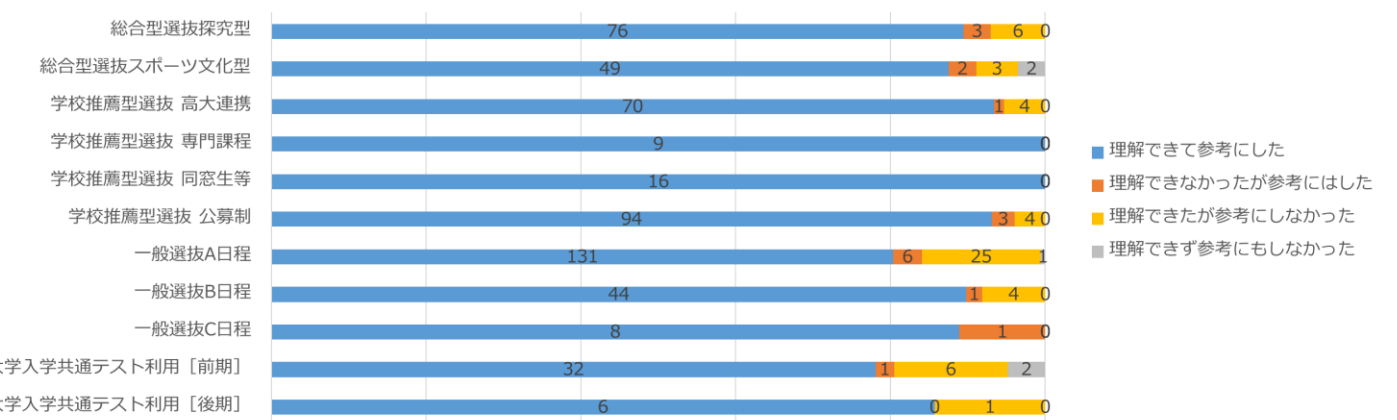


2. 入学に至るまでの受験生の取り組み（全体）
（1）アドミッション・ポリシーの理解度と、その進路選択への寄与

< 学科別 >

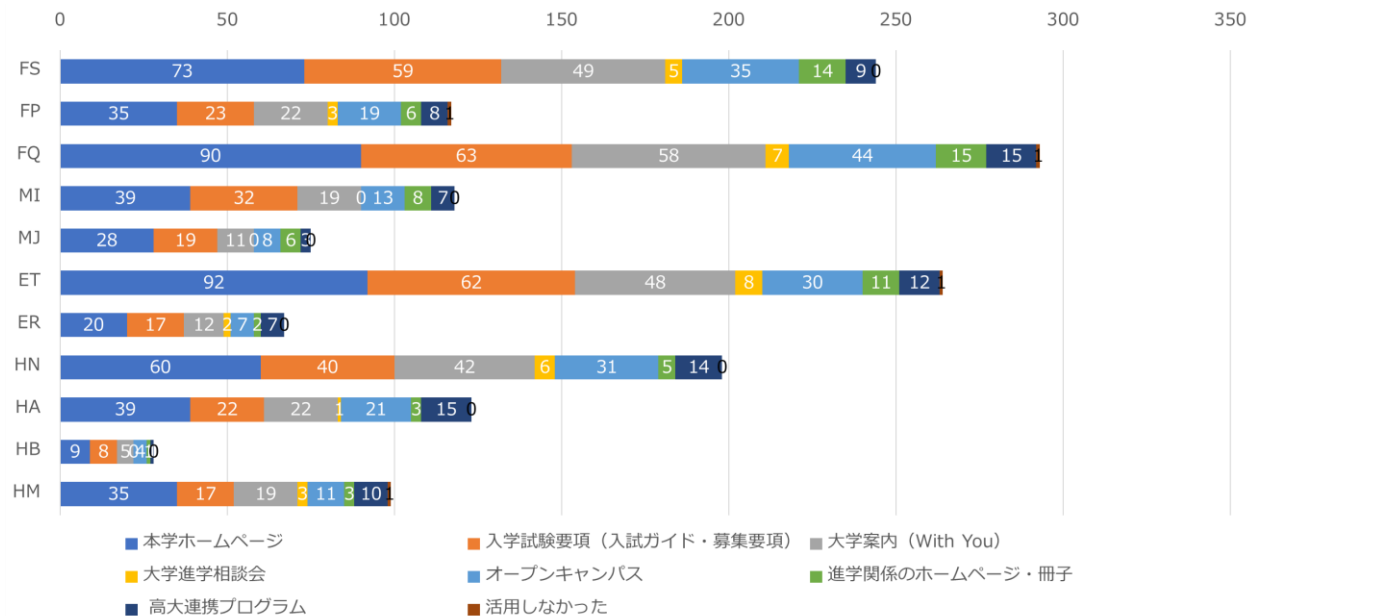


< 入試形態別 >



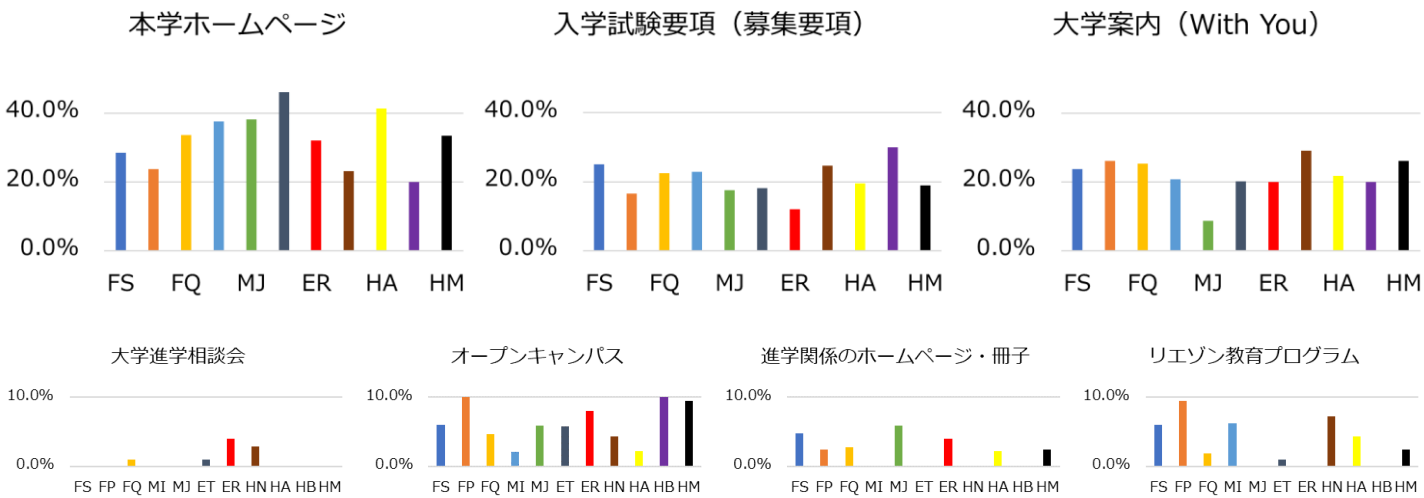
（2）アドミッション・ポリシーや入試情報を知るために活用した情報ツール（1つ以上。複数回答可）

< 学科別 >

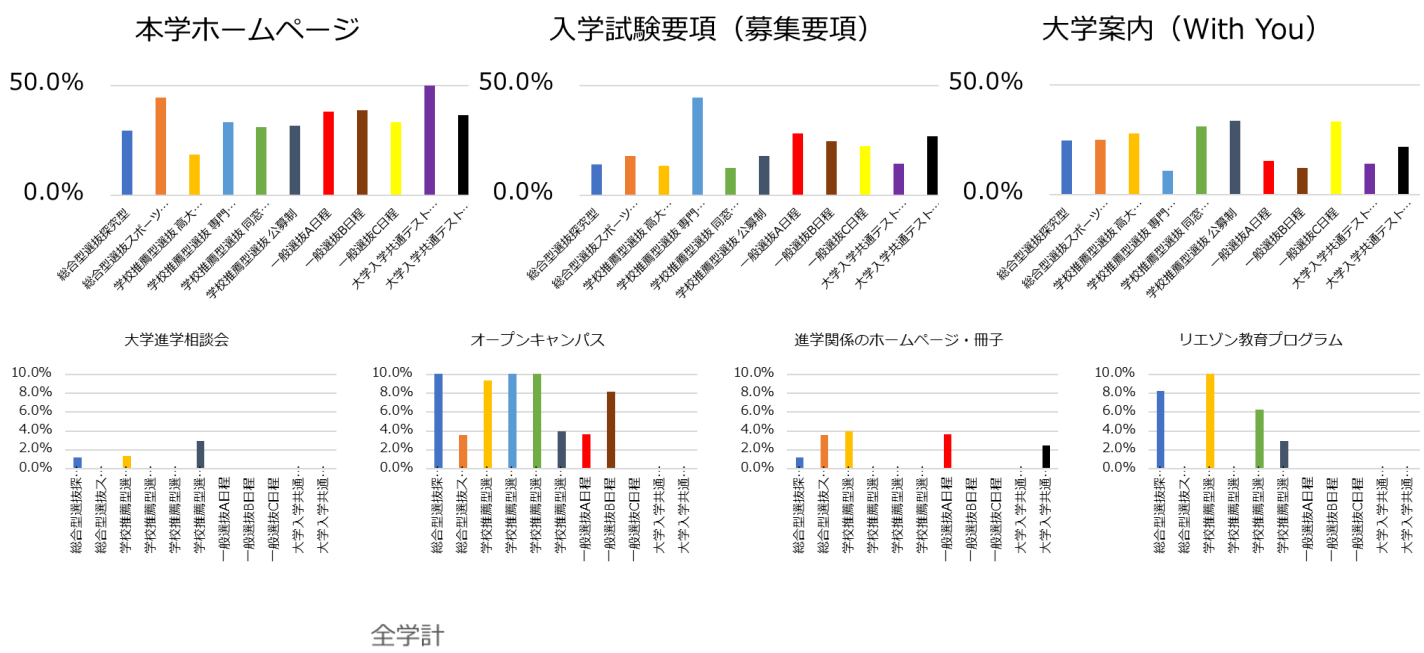


(3) 活用した情報ツールの中で、進路選択に一番参考となったもの(1択)

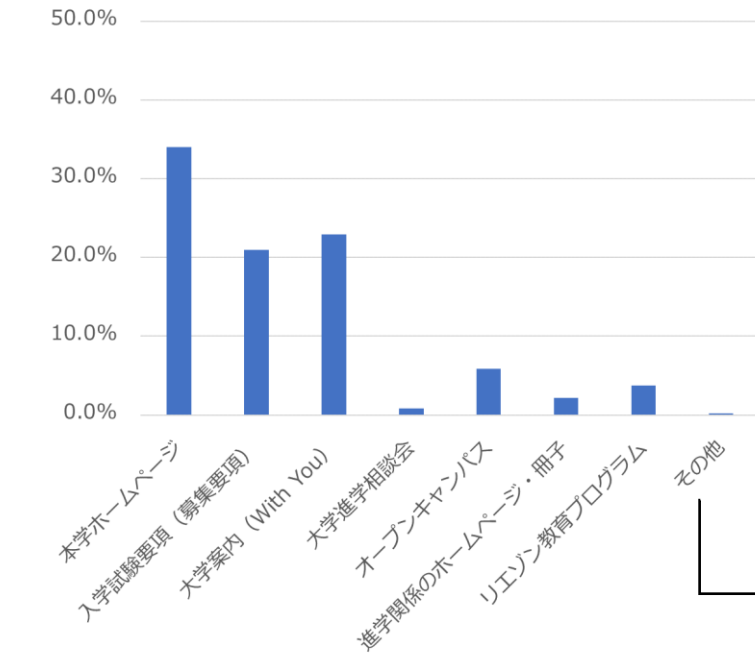
< 学科別 >



< 入試形態別 >



全学計

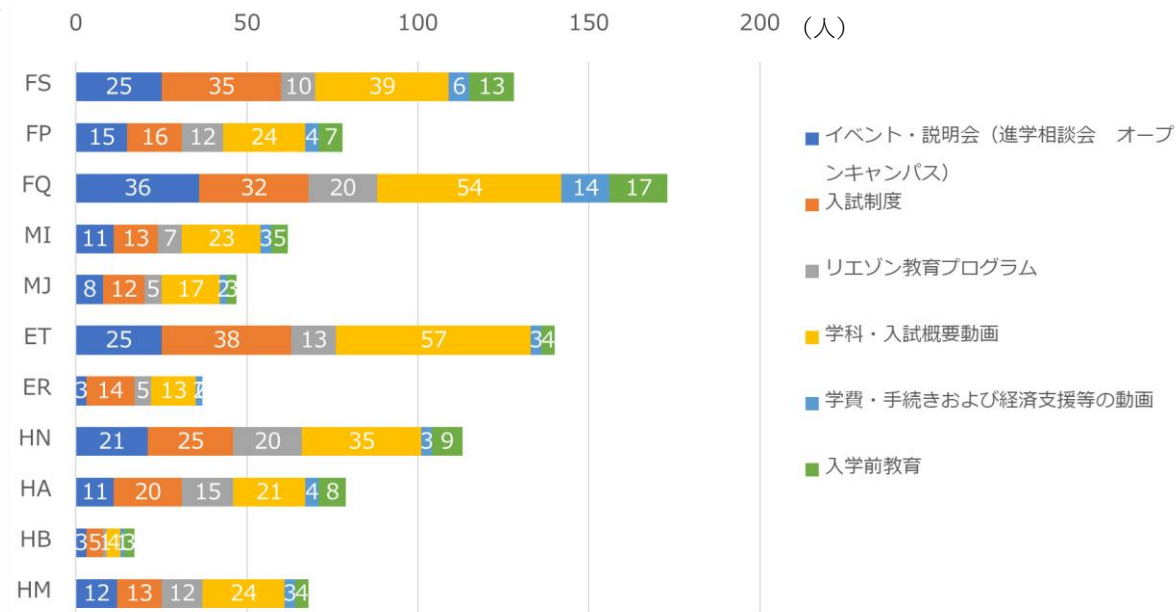


前項では、進路志望の決定要因として、オープンキャンパスへの参加結果が大きく寄与している可能性が高いという結果を述べた。しかしながら、左図より、アドミッションポリシーの理解を始めとした具体的な進路選択の際に参考にした情報の主な出所は、オープンキャンパスではなく、「ホームページ」「募集要項」「大学案内」であったことがわかる。

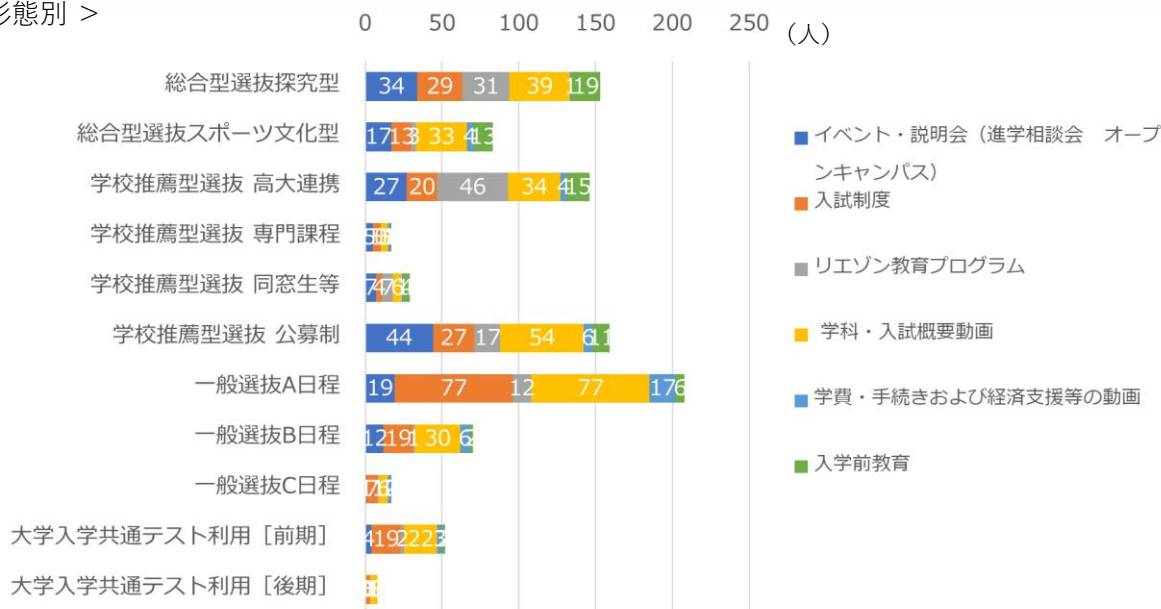
東北福祉大の先輩に話を聞いていた。
大学案内 (With You)
大学ホームページ
スマホ

(4) 本学ホームページ「入試情報」の内容で、参考になった内容(1つ以上。複数回答可)

< 学科別 >



< 入試形態別 >



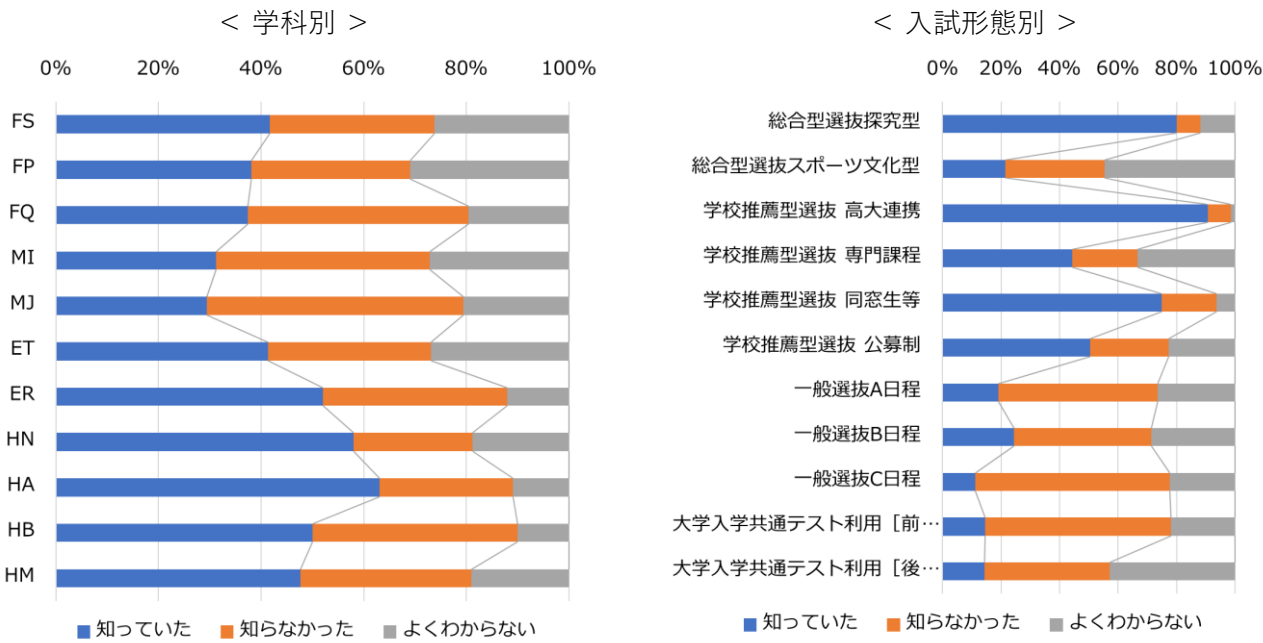
※本学ホームページ「入試情報」の内容で、改善してほしいことや要望(自由記載から抜粋)

- ・重要そうなものはトップに出して見やすくわかりやすくしてほしい。
- ・各都道府県からの志望者数、受験者数、合格者数、倍率が分かるようにしてほしい。
- ・面接等のアドバイスなどがあると受験準備中も安心できる。
- ・学科の概要について文面だけではなく、実際の学生の生の声を含めて動画にして説明してほしい。
- ・入試日程など詳しい情報は、メールではなく、せめてはっきりと分かる通知としてほしい。
- ・オンライン出願はやりやすかったが、その後の情報入手に手間取った。出願した人向けの情報の場所が不明。大学HPは検討中の人向けで、既に受験予定の人向けにそれ以上の情報が出てこず、使い勝手が悪い。
- ・更新を分かりやすくして欲しい。
- ・入試制度についてより詳しく書いてほしかった。
- ・英語資格の活用の際に、「英検二級合格かつ〇〇点以上」と記載して頂いた方がわかりやすかった。
- ・入試別の日程と特徴を詳細に記載してほしい。
- ・入試合格後の知らせがすべてホームページでのお知らせで、見逃しがあったりするため不便だった。メール登録などをしてメールで知らせてほしかった。
- ・インスタなどでの高校生向けの発信をしてほしい。

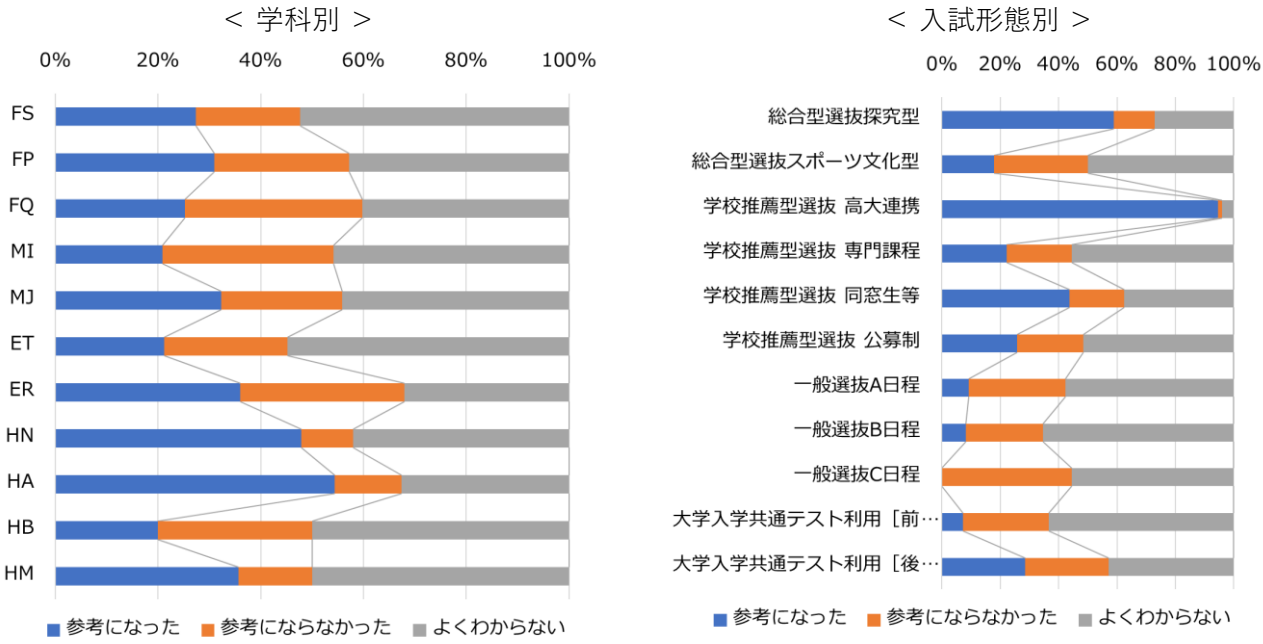
自由記載内容のほとんどは、出願した人向けの情報の不足を訴えたものであった。以上の結果をまとめると、入学に至るまでの作業として、まずオープンキャンパスへ参加して志望意思を固め、その後に入試準備を目的としてホームページや募集要項等を活用する、という準備プロセスを経た学生(回答者)が多かったと思われる。

3. 高大連携事業

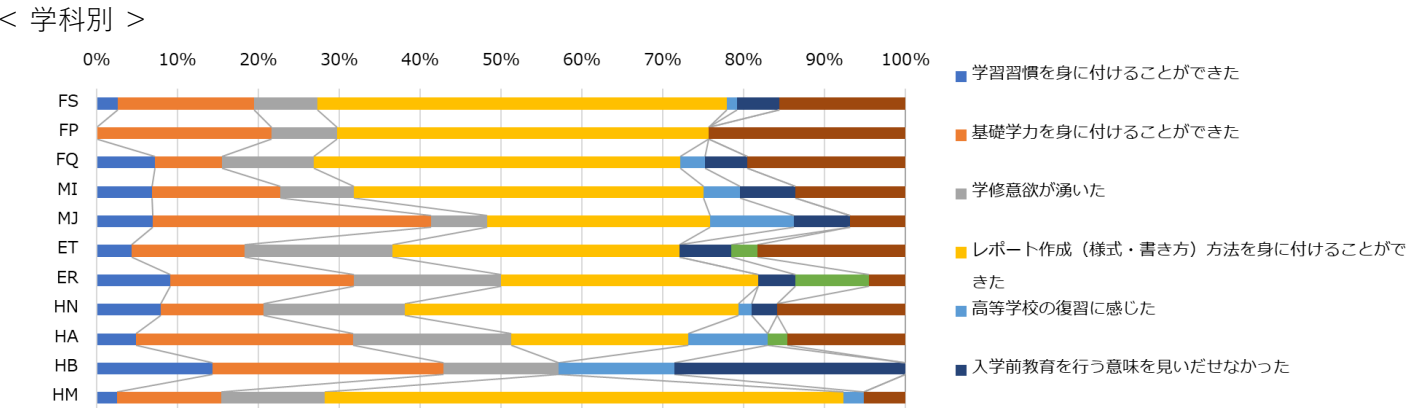
(1) 大学と高等学校の取り組み（高大連携事業）の認知度（1 択）



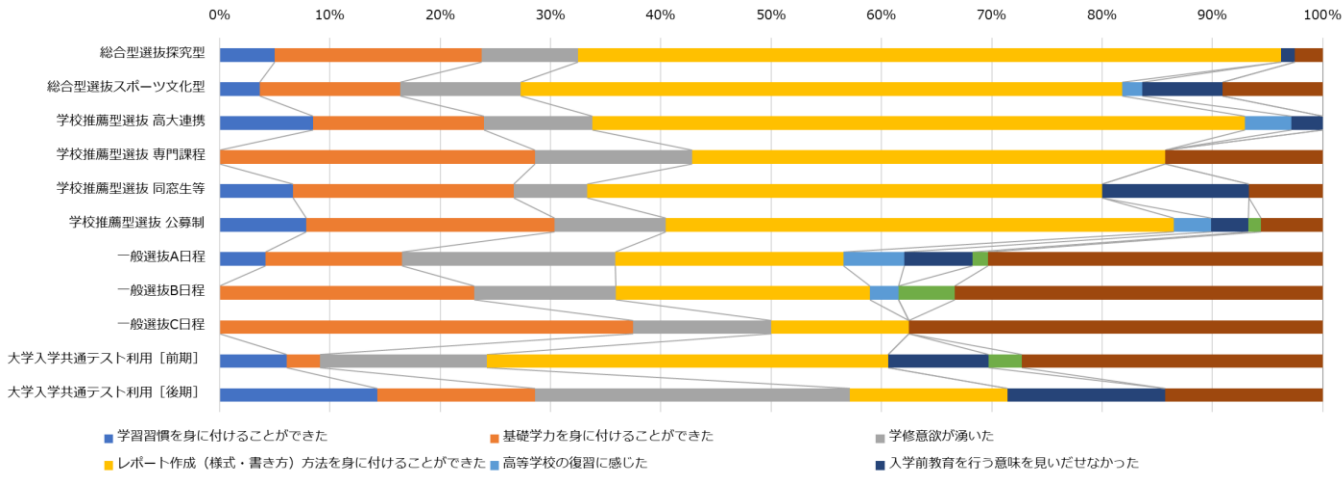
(2) 志望や進路決定への寄与（1 択）



(3) 入学前教育の成果（1 択）



< 入試形態別 >



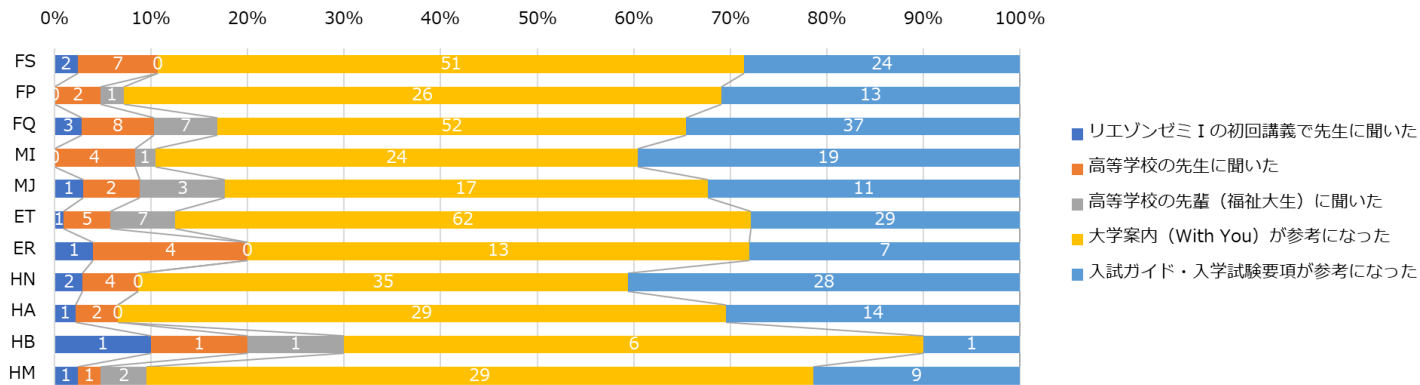
（自由記載）

- ・ 内容が内容なので、学力、学習習慣は身に付かないと思いました。
- ・ 何かに活かした感じはなかったから。
- ・ 実際に入学して、大学生活を送ってきて、入学前にしたことが役に立っていると感じたことが今の時点ではないから。
- ・ 公募制で受験したため、高大連携のことを知らなかった。
- ・ 入学後の学びに直接的に大きな影響を与えるようなものではなかったため、役に立っているのかよく分からないから。

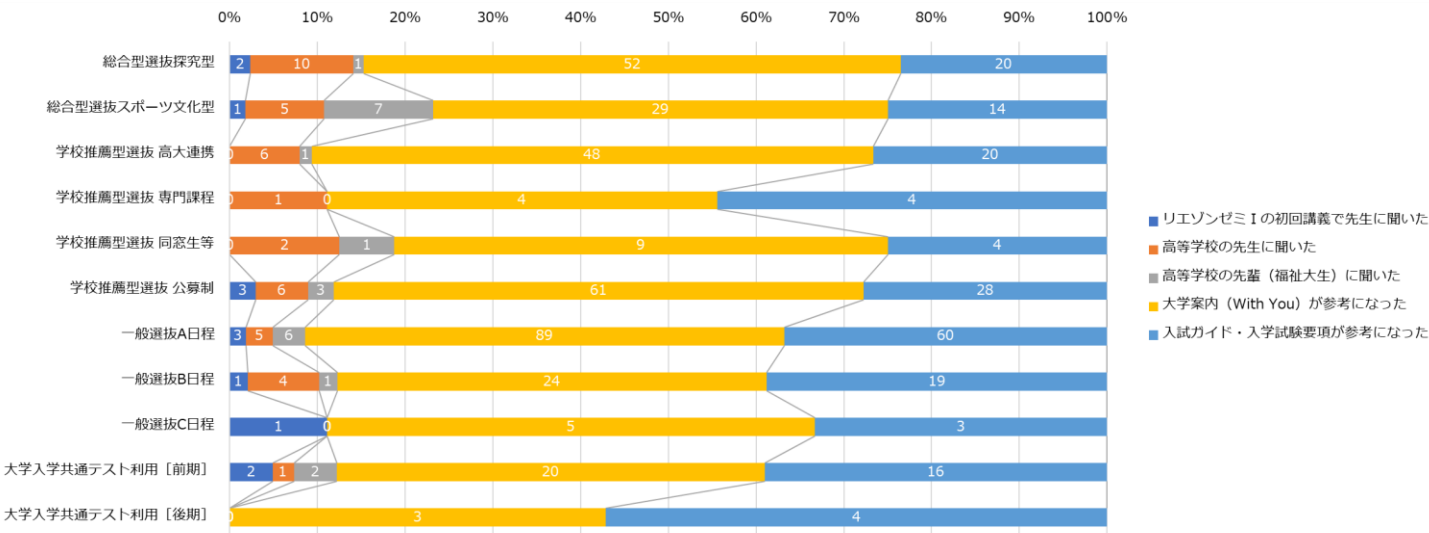
（４）入学前教育レポート（３月分）【学修計画書】について

①作成にあたり、特に参考になったもの

< 学科別 >

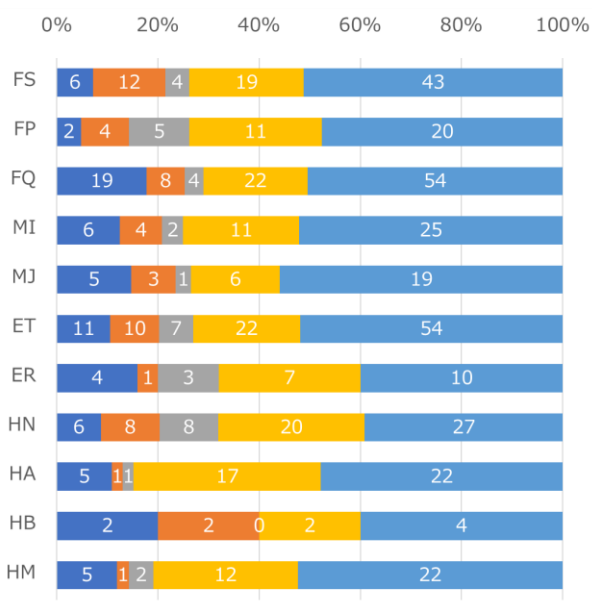


< 入試形態別 >

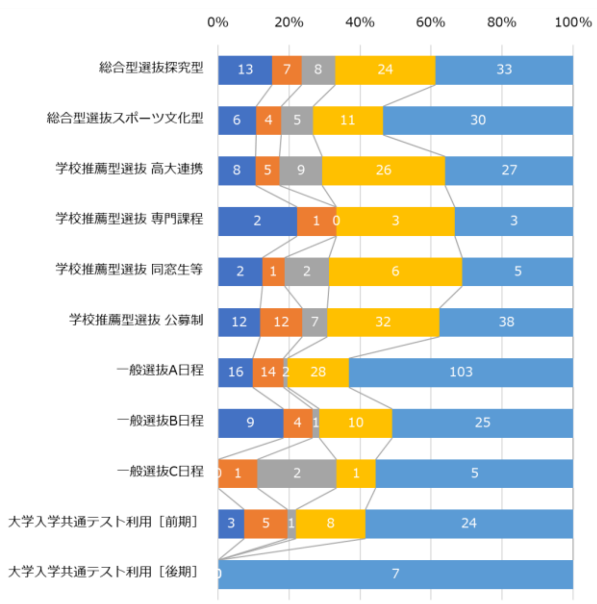


4. 本学ホームページにおけるオープンキャンパス動画の公開
(1) 認知度

< 学科別 >



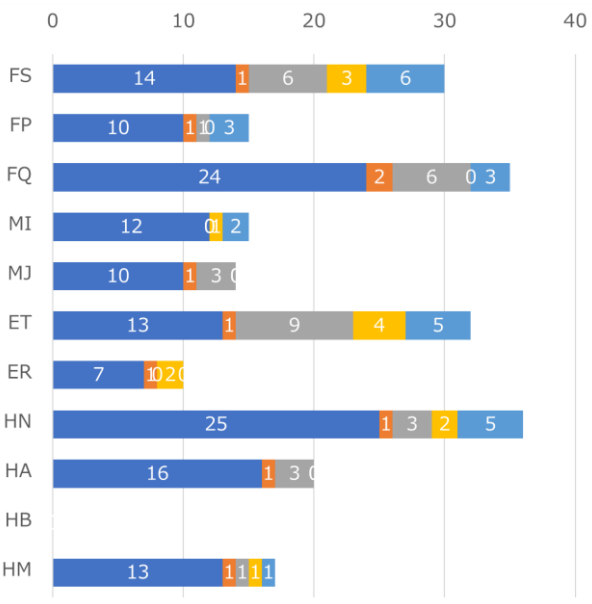
< 入試形態別 >



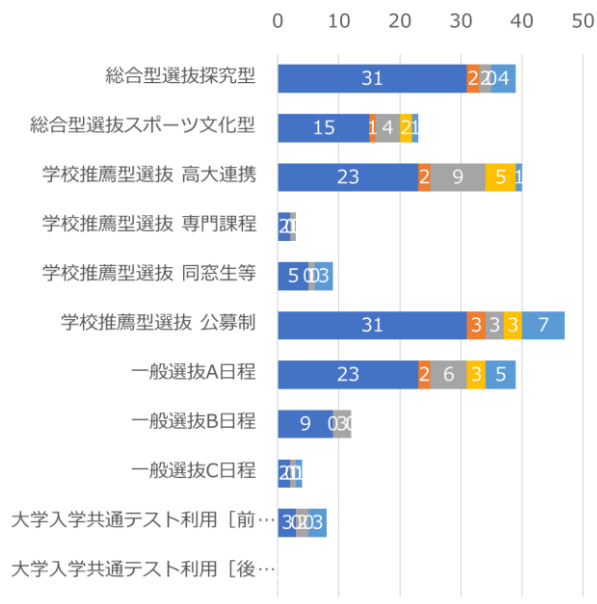
- 公開を知っていたがホームページを見なかった
- 公開を知っていてホームページのタイトルを見たが、内容まで確認しなかった
- 公開を知っていてホームページをPCで見た
- 公開を知っていてホームページをスマートフォン・携帯端末等で見た
- 公開を知らなかった

(2) オープンキャンパス動画を見た方 - 見た場所（複数回答可）

< 学科別 >



< 入試形態別 >

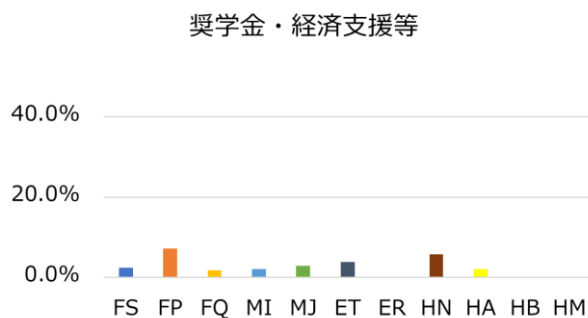
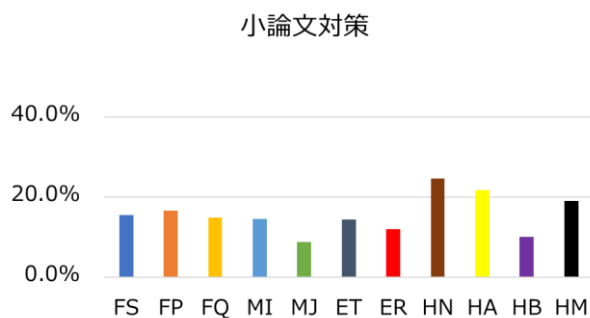
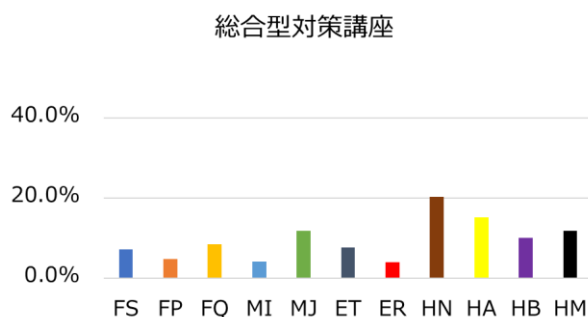
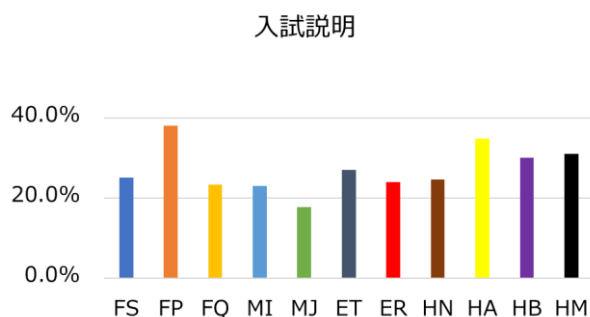


- スマートフォン・携帯端末等を使い学校で見た
- 学校の授業で教室のPCで見た
- 学校や自宅でないWi-Fi環境があるところで見た
- 移動中のバス・列車・自動車などで見た
- その他

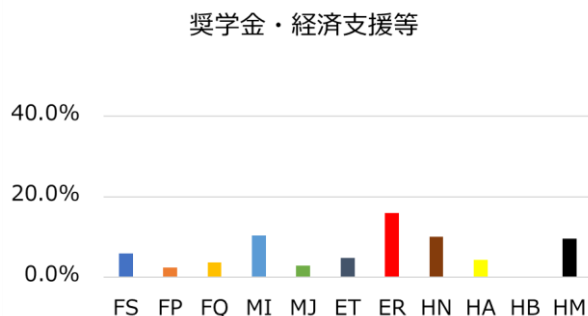
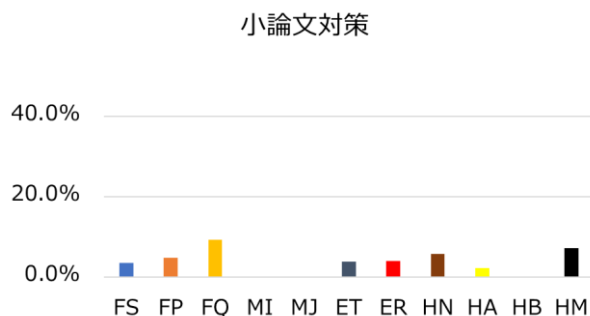
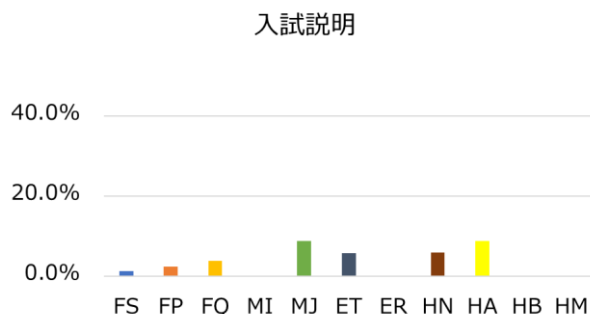
自宅 25

(3) 内容

①良かったもの（複数回答可）



②参考にならなかったもの（複数回答可）

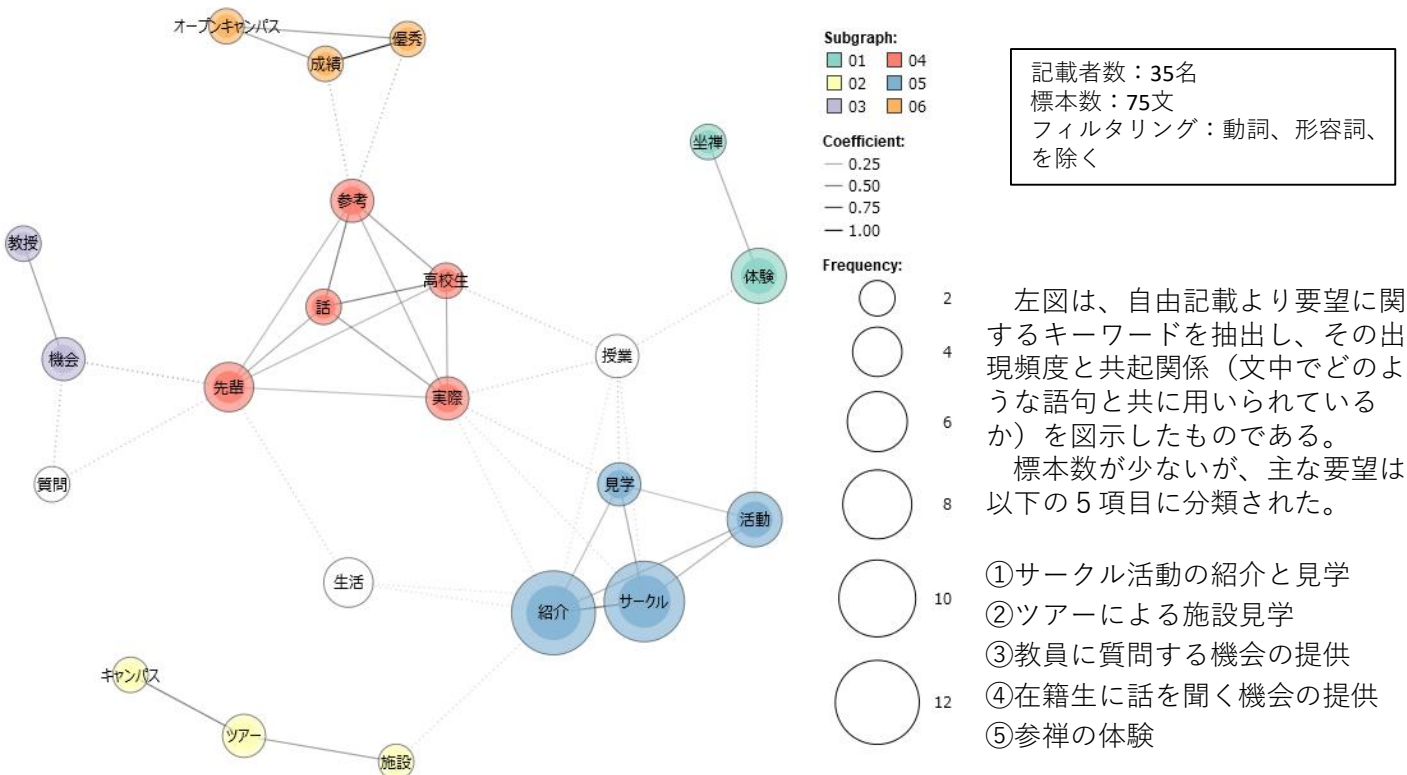


認知度の章に示した図の通り、すべての学科において50%前後の学生が「公開を知らなかった」旨の回答をしていることから、高校性の認知度は低いと考えられる。

既出の自由記載にもあったが、高校（生）側の理由でオンラインでの参加が難しい場合も想定されること、また進路選択とは直接関係しない純粋な広報の視点からも、ホームページでの公開の十分な告知が必要であろう。

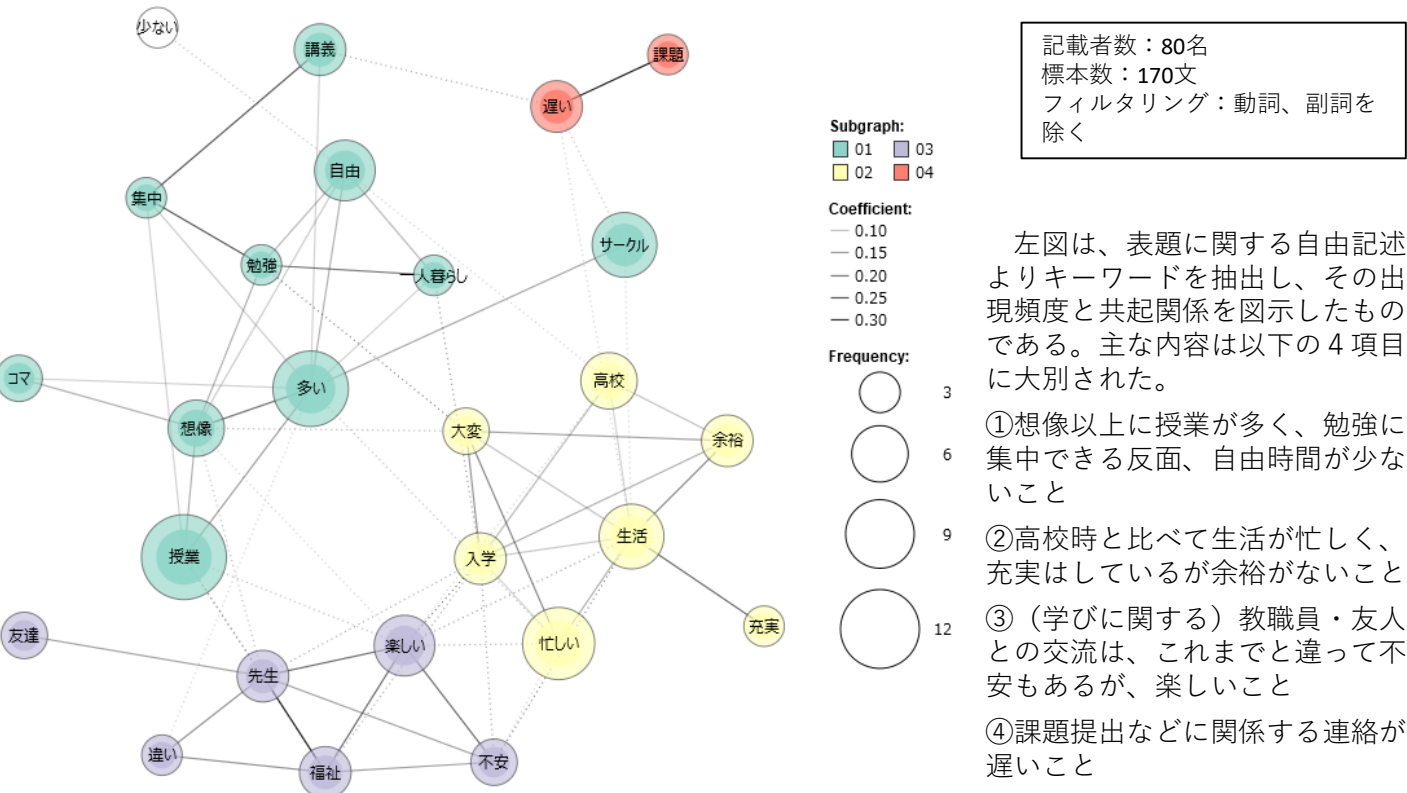
また、その際には、動画閲覧者が「良かった」と評価している「入試情報」や「試験対策」だけでなく、オンラインで実施されるツアーのルートに沿ったナレーション付きの施設の紹介や、在籍生へのインタビューなども適宜取り入れて、「動画での説明に慣れ親しんだ」層へのアピールに注力すると良いと考えられる。

5. オープンキャンパスへの要望（是非やってほしいことに関する自由記載）



このうち①～④までは既に実施されていると思われるが、要望としては当該機会の回数や、時間の増加を望む旨の内容であった。また、④については、特に成績優秀者以外の就学状況（おそらく授業について行かれるかどうか）を聞きたい旨の内容であった。⑤の実施については十分な検討を要すると思われるが、本学の特徴ある教育として「禅のこころ」が取り上げられていることもあり、実際の内容に興味を持たれたものと考えられる。

IV. 入学前に思い描いていた大学生活と現在の大学生活とのギャップ



これらの内容は、概ね一般的な初年次学生にみられる、いわゆる「カルチャーショック」に依るものと考えられ、個人ごとの記述を見ても特に注意を要する内容は見られなかった。5月連休後の微妙な時期の調査であったが、教職員・学生との交流が「楽しい」という前向きな記述もみられ、大学での学びの厳しさを知ると同時に新しい生活へ向けての期待が高まっていることが伺われた。